

提言第 1 号 中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析

事例5

< 事例概要 >

- ・潰瘍性大腸炎の患者。
- ・死因は、心タンポナーデによる心臓の拡張不全から誘発された致死性不整脈。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。
- ・中心静脈栄養目的で、ランドマーク法で右鎖骨下より大腿部用（60cm）のカテーテルを使用し25cm挿入。胸部X 線で問題ないと判断し、中心静脈栄養を開始したが、輸液ラインに逆流を認めることがあった。挿入 2 週間後、気分不快が生じ、ショック状態となった。胸部CT で、カテーテル先端が右心室にあり、心タンポナーデであることを確認した。カテーテルを5cm 引き抜いたところ、直後に心室細動となった。心肺蘇生を継続しながら転院するが、転院当日に死亡した。